

## ◆資本的収支の決算◆

資本的収支では、下水道管や浄化センター設備・機器の新設、取り替えなどに必要な支出と、それらの事業を行うために金融機関などから借り入れたお金や国から交付される補助金などの



▲平成30年3月に完成した雨水を川に排水するための吐口(常盤町地区)

収入、過去の借金の元本の返済金などを経理しています。平成29年度には、建設改良事業として、常盤町地区の雨水を来馬川に排水するための吐口を新設したほか、同地区の汚水管を改築・更新する工事を行いました。また、中登別町などで、居住者の希望に応じ、移管を含めて11基の浄化槽を設置しました。

この結果、資本的収支の決算額は、消費税を除き、収入が9億7千252万円、支出が15億5千575万円となり、収入と支出の差引では、5億8千323万円の不足となりました。不足分については、収益的収支で、減価償却費などの現金の支出を必要としない経費によって生じる内部留

設改良事業として、常盤町地区の雨水を来馬川に排水するための吐口を新設したほか、同地区の汚水管を改築・更新する工事を行いました。また、中登別町などで、居住者の希望に応じ、移管を含めて11基の浄化槽を設置しました。

## 資本的収支の決算状況 (単位：万円)

項目	金額
資本的収入	97,252
企業債	70,310
金融機関などからの借入金	70,310
負担金及び分担金	920
利用者からの負担金など	305
一般会計からの負担金	615
補助金	26,022
国からの補助金	9,780
一般会計からの補助金	16,242
資本的支出	155,575
建設改良費	33,852
下水道管整備のための経費	24,536
浄化センター整備のための経費	8,078
浄化槽整備のための経費	1,238
企業債償還金	121,723
借入金の返済	121,723
収支不足額	△ 58,323

## ◆今後の見通し◆

保資金(現金の余剰)により、補てんしました。

平成28年度に策定した『下水道事業経営戦略』では、平成33年度以降に、資本的収支で生じる不足額を内部留保資金で補てんすることが難しくなり、資金不足が生じる見込みとなつたため、市民の皆さんにご理解いただき、平成30年1月1日から、下水道使用料を引き上げたところで

しかし、平成29年度下水道事業決算については、平成29年4月から平成30年3月までの収入と支出をまとめたもので、使用料改定に伴う収入増の効果は一部であることから、収益的収支の営業損益、経常損益ともに赤字で、最終的な経営成績を示す純損益も赤字となるなど、厳しい経営状況となりました。また、資本的収支は、平成28年度以前と同様に、収入と支出の差引で生じた資金不足を、収益的収支で生じた内部留保資金で補てんしている状況です。

平成30年1月の下水道使用料の引き上げにより、登別市の下水道事業会計における当面の資金不足は避けられる見通しですが、今後も、人口減少などを背景とした使用料収入の



▲生活排水、し尿などをきれいな水に処理する『若山浄化センター』(若山町1丁目)

減少が見込まれ、下水道事業の経営はより厳しさを増していくものと予想されます。

将来にわたって、市民の皆さんに下水道サービスを安定的に提供できるように、維持管理経費などの縮減や施設の効率的な整備、使用料の徴収体制の強化などを行い、経営健全化に努めてまいります。

下水道は、市民生活を支えるインフラとして、利用者である市民の皆さんにより支えられています。

市は、今後も、下水道事業の決算状況などについて、広報紙などで市民の皆さんにお知らせしていきますので、下水道事業へのご理解とご協力をお願いします。

### 問い合わせ

下水道グループ

(011-856-0052)

### 用語解説

下水道事業経営戦略：平成29年度以降12年間に見込まれる施設投資額や使用料収入額をまとめ、将来にわたり安定的に事業を継続するために必要な取り組みをまとめたもの。